

## 1 学校教育目標

- 心豊かで思いやりのある子ども      ○自ら進んで考え、工夫する子ども
- 健康でねばり強い子ども              ○たがいに協力し、進んで実行する子ども

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

|         |  |
|---------|--|
| ○学校像    | 確かな学力と豊かな心、健やかな体の本気で育てる学校<br>○学力を定着させる学校              ○豊かな人間性をはぐくむ学校      ○体力・運動能力を高める学校<br>○家庭・地域が協力し合う学校      ○組織的に教育活動を展開する学校   |
| ○児童・生徒像 | ○心豊かで思いやりのある子ども（あいさつをきちんとし、誰に対してもやさしく思いやりのある子）<br>○自ら進んで考え、工夫する子ども（自ら考え、自ら学ぶ意欲を身につける子）<br>○健康でねばり強い子ども（健康で、我慢強く最後までやりとげる子）<br>○たがいに協力し、進んで実行する子ども（自分で考え自分で判断し自分で行動し責任をとることができる子） |
| ○教師像    | ○プロ意識をもち、教育活動を生き甲斐と感ずる教師<br>○子どもと共に自ら伸びようと努力し続ける教師   |

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状      新型コロナウイルス感染防止策を徹底しながら、児童の学びを保障するために最大限の努力をしている。

2 令和3年度の成果と課題

### 【成果】

#### ■学力向上

○J Tによる授業力の向上と徹底した個々の学力分析による個に応じた指導によって、令和3年度足立区学習定着度調査では、2教科の平均通過率が89.1%となった。全学年とも平均正答率、通過率ともに7年連続で区の平均と目標値を上回った。

#### ■教師の指導力向上

東京都O J Tガイドラインで求められている目標を達成するために、各教員の職層と経験年数、資質と能力から、個に応じた指導や助言を行った。若手教員及び新任教員には各教科で「あだちスタンダード」の授業ができるように、管理職と区教科指導専門員で継続的な指導を行った。特に、「算数」では、児童の自力解決を大事にした問題解決型授業展開の指導法が継承されている。ベテランから若手までの全員が本校の学習における課題について強い危機意識をもって、自己の授業力の改善を図れた。

#### ■心の教育の充実

一人一人が自分自身のリーダーになり、自信をもって、実りある充実した人生を送れるようにするために、「リーダー・イン・ミー」を心の教育の柱として推進した。また、Q U調査を年2回実施し、学級全体と児童個々の状況や学級内の対人関係をデータによって明確に把握した。管理職と学年とのデータに基づくミーティングを定期的にも実施し、児童個々に対する方策を練らせた。データに基づく声かけや励まし等で、児童の自己肯定感が高まってきている。一層の心の教育を推進する。

### 【課題】

#### ■カリキュラムマネジメントの推進

S D G sを意識し、理念の理解をしながら本校や地域の実態に応じた学習を展開する。また、持続可能な社会の創り手を育成する。

## 4 重点的な取組事項

|   | 内 容             | 実施期間（年度） R:令和 |    |    |    |    |
|---|-----------------|---------------|----|----|----|----|
|   |                 | R2            | R3 | R4 | R5 | R6 |
| 1 | 学力向上アクションプラン    | ○             | ○  | ○  | ○  | ○  |
| 2 | 教師の指導力向上と心の育成   | ○             | ○  | ○  | ○  | ○  |
| 3 | 保育園・幼稚園・中学校との連携 | ○             | ○  | ○  | ○  | ○  |

## 5 令和4年度の重点目標

| 重点的な取組事項－1         |                      | 学力向上アクションプラン            |  |   |   |                               |   |  |             |
|--------------------|----------------------|-------------------------|--|---|---|-------------------------------|---|--|-------------|
| A 今年度の成果目標         |                      | 達成基準<br>(目標通過率)         | 実施結果<br>(通過率結果)  | コメント・課題   |   |                               | 達成度<br>◎○△●   |  |             |
| 足立区平均通過率と同水準を達成する。 |                      | 足立区学力定着度調査<br>区平均通過率の数値 | 数値目標である区平均通過率83.7%を超え、87.7%と目標を達成した。8年連続で区の平均通過率を上回った。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>区調査において達成基準を上回ると同時に、本校の学力向上の成果を、多くの卒業生が進学する花保中学校の学力調査にも反映することができた。</li> <li>学習の定着状況と成果と課題は6(1)①参照</li> </ul> |   |                               | ◎   |  |             |
| B 目標実現に向けた取組み      |                      |                         |  |   |   |                               |   |  |             |
| 新・継                | アクションプラン             | 対象・実施教科                 | 頻度・実施時期  | 具体的な取り組み内容<br>(誰が、何を、どのように)   | 達成確認方法                                    | 達成目標<br>(=数値)<br>(いつ・何を・どの程度) | 実施結果  | コメント・課題  | 達成度<br>◎○△● |
| 1<br>継続            | 学力向上<br>児童理解<br>対策会議 | 学年単位                    | ①4月<br>②6月<br>③11月<br>④1月<br>⑤随時                       | <b>【指導者体制】</b><br>管理職・学力向上委員長<br><b>【取組みのねらい・目的】</b><br>学力結果、QU結果の分析と対策 左記時期と対応<br>①前担任→現担任<br>②③④学年単位で個別分析<br>⑤上学年→下学年                             | 学力調査<br>再調査<br>プレテスト<br>QU調査 Web版<br>(2回) | 目標通過率<br>学級生活満足<br>群の割合向上     | <ul style="list-style-type: none"> <li>計画通り、年間を通して、対策会議を行い、各学年の学力と各学級のQU状況を把握した。児童個別の具体的な手立てを検討し、実行することができた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>学力とQUの状況とその対策について、適切な助言と進捗管理を行うことができた。</li> </ul> | ◎           |

|         |           |                             |   |   |   |  |   |  |   |
|---------|-----------|-----------------------------|---|---|---|--|---|--|---|
| 2<br>新規 | AI ドリルの活用 | 2年生以上<br>国語社会<br>算数理科<br>英語 | <ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習</li> <li>授業</li> <li>補習</li> <li>家庭学習</li> </ul> | <p>【指導者】学級担任 算数少人数</p> <p>朝学習、授業、家庭学習等において、個別最適化学習を行い、学びに向かう姿勢を向上させ、学力の平準化、底上げ、向上を図る。</p>       | 管理機能で正答率や回答時間を確認する。   | 個別課題の数値向上  | <ul style="list-style-type: none"> <li>AIドリル活用月間を中心に活用率が90%と区内のトップレベルである。区教委の依頼で活用事例を区内小学校に発表した。</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>活用回数だけではなく、できない課題を再度取り組ませるなど、個別最適化された学びの保障を目指していく。</li> </ul>                         | ◎ |
| 3<br>改善 | ICTの活用    | 全児童                         | 毎日  | <p>【指導者体制】全教員</p> <p>情報教育部作成の情報教育年間計画及び「情報活用能力花保小モデル」に基づいて授業計画を立て実施。1人1台のタブレットを活用する授業実践を行う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報教育の年間計画を作成する。</li> <li>ICTを活用した授業実践の公開</li> <li>校務省力化を実感する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「情報活用能力花保小モデル」に合わせたの習熟</li> <li>ICTを活用した授業実践の活用</li> <li>校務省力化の実感する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>各学年のICTスキル指導計画を作成した。指導計画に基づき系統性のある指導ができた。</li> <li>3年生以上は、タブレット端末が日常の学習ツールとなった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>低学年のGIGA開きを年度初めに行う。</li> <li>クラウドを活用した学習をより多く取り入れることで、授業と家庭学習のハイブリット化を目指す。</li> </ul> | ◎ |
| 4<br>改善 | MIM       | 1学年児童                       | 毎月  | <p>【指導者体制】1年担任、日本語指導</p> <p>【取組みのねらい・目的】特殊音節の定着（読み・書き）<br/>読みの流暢性を高める。</p>                      | 毎月、アセスメントを実施する。   | 年度末までに<br>1st ステージ<br>80%以上<br>2nd ステージ<br>20%以下   | <ul style="list-style-type: none"> <li>個別取り出し指導が不十分で、定着させることに課題が残った。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>通常の授業の中でも特殊音節の反復練習を取り入れ、さらに定着を図っていく。</li> </ul>                                       | × |

|         |                      |                       |            |  |   |   |   |  |   |
|---------|----------------------|-----------------------|------------|--|---|---|---|--|---|
| 5<br>継続 | 個に応じた指導              | 全児童<br>国語<br>算数<br>読書 | 年間         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習</li> <li>・花保ステップタイム</li> <li>・放課後学習</li> <li>・放課後補習</li> <li>・そだち保護者面談</li> <li>・パンダとコアラからの挑戦状（漢字テスト）</li> <li>・家庭学習ノート</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ベーシック診断シート、及び次へのステップなどのミニテストを実施。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末までに東京ベーシック診断シート正答率90%、毎回のミニテストで正答率90%、毎回のミニテストで正答率80%以上の結果。</li> <li>・読書量の増加。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ベーシック診断シートで正答率90%、毎回のミニテストで正答率80%以上を達成した。</li> <li>・パンコラ挑戦状によって漢字力が伸び、美しい字を書くようになった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本を繰り返し行ったことで、学力の定着が図れている。</li> <li>・応用問題への取り組みも必要である。</li> <li>・下位層は、個々のつまずきに合った問題に取り組ませることができた。</li> </ul> | ◎ |
| 6<br>継続 | かけ算九九<br>検定免許証<br>制度 | 2学年以上<br>の全児童         | 5月～<br>2月  | <p>【指導者体制】<br/>検定者は、管理職、算数少人数担当者。指導は、担任と算数少人数担当者。</p> <p>【取組みのねらい・目的】<br/>ゴールド、普通免許制度の工夫で全員が習得。</p>  | 学力向上委員長と担任が連携して記録し、管理職に提出する。  | 普通免許全員取得。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生以上のゴールド免許取得率は、58%であった。普通免許を取得できていない児童も若干名いる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・更新制度は効果的である。繰り返し覚えさせないと忘れてします。</li> </ul>  | ◎ |
| 7<br>新規 | 英検サポート<br>プログラム      | 6年生<br>外国語            | 外国語<br>授業時 | <p>【指導者体制】<br/>担任 外国語講師</p> <p>【取組みのねらい・目的】<br/>ポートフォリオでの目標確認と達成状況の確認</p>  | 英検 E S G<br>個人スコア<br>レポート   | 団体 CSE スコア  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体平均総合 CSE スコア 431 と「よくできました」の判定を受けた。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語が大好きになっている。</li> <li>・外国語アドバイザーと講師の奮闘で、学校全体が外国語に慣れ親しむ良い雰囲気となっている。</li> </ul>                                 | ◎ |

| 重点的な取組事項－２                           |   | 教師の指導力の向上 —SDGs を意識した教育の推進 ICT の活用能力と心を育てる資質・能力の向上—   |   |   |     |
|--------------------------------------|---|---|---|---|-----|
| A 今年度の成果目標                           | 達成基準  |   | 実施結果  | コメント・課題   | 達成度 |
| ICT の活用能力と心を育てる資質・能力の向上              | OJT ガイドラインに基づく育成段階ごとの目標達成<br>Hyper-QU web 版調査 2 回目学級生活満足群数値の向上                      |   | 都の OJT ガイドラインをもとに本校独自の OJT 計画を作成し、個々の力に応じた指導を行った。   | 来年度の研究を I C T 教育とし、児童の I C T 利活用を促進させる。   | ◎   |
| B 目標実現に向けた取組み                        |   |   |   |   |     |
| 項目                                   | 達成基準  | 具体的な方策  | 実施結果  | コメント・課題   | 達成度 |
| ICT 活用指導力の向上<br>校務の情報化による<br>校務の負担軽減 | ○AI ドリルの活用<br>○ I C T を活用した 3 わ「(わかる・わくわくする・わらいがある) の授業を展開」<br>○校務の情報化の実現と校務負担軽減の実感 | ○「情報教育年間計画」及び「情報活用能力花保小モデル」の作成と活用<br>○情報化指導研修の実施。<br>○ICT 環境の整備<br>○出欠、成績、保健等の情報や図書等の管理、指導計画や指導案、デジタル教材、学習履歴等の情報化 | ・校内組織の情報教育部を中心に、ICT の推進を図ることができた。<br>・授業での活用が図れた。<br>クラウドの活用により、校務を軽減することができた。<br>・Google 認定教育者として 4 名合格した。           | ・来年度の研究を I C T 教育とし、児童の I C T 利活用を促進させる。<br>・C 4 t h H o m e & S c h o o l 導入の準備を進める。 | ◎   |
| 資質向上<br>SDGs を意識した教育の推進              | ○職層に応じた職務の遂行<br>○SDGs を意識した教育活動の推進  | ○SDGs を意識した教育課程<br>○校長レクチャー、転入・新規採用教員研修と若手教員養成塾の実施。<br>○教科指導専門員の指導<br>○自己申告面接の重視<br>○学力・QU 分析研修の実施                | ・年度当初の若手教員による転入教員・新規採用教員研修によって若手は自信をつけ、転入者は本校の課題をいち早く理解した。<br>・管理職による計画的な学年面接と個人面接及び、日々の指導、助言によって、教員の資質・能力を高めることができた。 | ・教職員の同僚性が高く、向上心をもって教育活動を行っている。この学校文化から個々の資質を高めることができています。この学校文化を継続させたい。               | ◎   |

|                                      |   |   |  |  |          |
|--------------------------------------|---|---|--|--|----------|
| <p>心の教育の充実<br/>道徳授業の充実<br/>いじめ防止</p> | <p>○Hyper-QU web 版調査<br/>2回目学級生活満足群<br/>数値の向上<br/>・7つの習慣の日常化<br/>・いじめ報告数の減少</p> | <p>○全校朝会での講話<br/>○QU調査の2回実施と分析<br/>○「リーダー・イン・ミー」教育の研究と日常的な推進<br/>・サンクスカードの通年実施<br/>○共通ゴールへの共通指導<br/>○無言清掃</p> | <p>QU1回目学級生活満足群64%<br/>QU2回目学級生活満足群70%<br/>(全国平均42%~43%)<br/>・2回目のQU調査では、学級満足群に属する児童が6%向上した。全国平均と比較しても28%高い。<br/>・「道徳」とともに、全学級で「リーダー・イン・ミー」の授業を行い、「心の教育」を推進できた。<br/>・サンクスカード、信頼貯金で自己肯定感を高めることができた。<br/>・いじめ防止対策委員会を随時実施し機能させた。「いじめアンケート」を実施するなど年間を通して「いじめ防止」の指導を行った。<br/>・代表委員会による児童自らの「いじめ防止キャンペーン」を実施した。</p> | <p>・「リーダー・イン・ミー」を心の教育の柱として、全教職員で実践した。この研究及び多くの手立てによって確実に児童の非認知スキルを高めることができた。<br/>・研究を通して、「ポーズ」、「ゴール」、「信頼貯金」「シナジー」の共通ワードが日常化した。次年度も本校の特色ある教育活動として継続し生かしていく。</p> | <p>◎</p> |
| <p>教師・保護者連携</p>                      | <p>○相互の連携を深める。</p>  | <p>○母親・父親学級の開催</p>  | <p>・4月に母親、父親学級を開催し、保護者から高い評価を得た。</p>   | <p>・次年度も開催する。</p>  | <p>◎</p> |

| 重点的な取組事項－3                                |  | 保育園・幼稚園・中学校との連携   |  |   |     |
|---|--|---|--|---|-----|
| A 今年度の成果目標                                |  | 達成基準  | 実施結果   | コメント・課題   | 達成度 |
| 保育園・幼稚園・中学校との連携を密にし、入学時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。 |  | 幼保中と連携して教育を進め、下記の2項目を達成する。  | コロナ禍で制約の多い活動となったが、本校の連携園とは、連絡会を通して課題を共有化することができた。園での校長講話や教職員交流、園児の小学校体験が実施できた。<br>花保中学校との連携<br>信頼関係が深まり多くの情報交換を行うことができた。 | 今後ともそれぞれとの連携を深めていく。                                   | ◎   |
| B 目標実現に向けた取組み                             |  |   |  |   |     |
| 項目  | 達成基準   | 具体的な方策  | 実施結果   | コメント・課題   | 達成度 |
| 保育園・幼稚園との連携                               | ○円滑に小学校生活をスタートすることができ、4月中に小学校生活に慣れる。<br>○学びにつながる生活習慣を身に付けさせるために、連携園と共通テーマを決めて実践。 | ○小学校スタートカリキュラムに基づいた週案簿の作成<br>○4月入学時実態調査の公表<br>○連携保育園・幼稚園<br>・卒園児状況参観（4月）<br>・校長講話（園保護者対象）<br>・花保小エリア園長会議の実施 | 連携する6園と連絡を密にし、幼保小連携教育を推進できた。音楽会や施設見学、交流給食を通して進学への期待を高めさせることができた。円滑な接続のために1年担任、年長担当がそれぞれの場所に出向き、研修や意見交換会で交流を深めた。          | ・来年度も幼保小の連携の重要性を認識し、小学校がリーダーシップをとって連携を強化する。           | ◎   |
| 花保中学校との連携                                 | ○授業力を高めるための研究交流授業の実施<br>○見学、交流活動の実施  | ○授業参観と協議会<br>○児童・生徒の状況についての情報交換・調整会議（随時）<br>中学校見学と部活動体験<br>○中一合宿の教員派遣                                       | 花保中学校の区学力調査の結果は、3教科平均通過率73.5%となり、区全体の相対的な順位も前年度同様に4位。本校の成果が反映している。花保中学校は中1の結果分析を行い、小学校での課題を具体的に示した。                      | ・昨年度に続き、花保小学校の学力向上の成果を顕著に中学校の成績に反映できたので、相互の信頼がより深まった。 | ◎   |

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ① 学力向上アクションプランについて

○数値目標 令和4年度足立区学習定着度調査区平均通過率2教科83.7% ○実施結果令和4年度足立区学習定着度調査花保小通過率2教科87.7%

【結果】全学年とも平均正答率、通過率ともに区の平均と目標値を上回っている。

【対策1】算数においては、令和4年度の区学力調査の結果を分析し、少人数加配教員が課題単元を分析し各学年と共有した上で、習熟度別定着度に合わせた全学年の復習を行い、授業を展開した。また、児童一人一人の学習内容の定着状況を常に把握し、つまづきがあった場合は、すぐに個別指導を行い解消させる。

【対策2】令和5年2月に新学年の学力調査を実施し、令和5年の学力調査までに個々の課題について習熟を図る。

【成果】8年連続、区の平均通過率を上回った。令和4年度は、令和3年度に続き、中学1年生の区学力調査でも、本校卒業生は好成績であった。足立区のポトルネックのひとつ「学力」において中学校によりよい「学力」のバトンタッチができたことを嬉しく思う。また、中学1年生の区学力調査結果（国語・数学・英語）と各教科の課題について、花保中学校から小中連携日に提供された。小学校で指導するポイントが明示され、全教員が理解し指導に生かしている。11月の再調査では、国語、算数の通過率を90%以上に向上させた。

#### ② 教師の指導力向上について

○成果目標 ICTの活用能力と心を育てる資質・能力の向上

○達成基準 教師一人一人の指導力の向上（OJTガイドラインに基づく教師一人一人の育成段階ごとの目標達成）

【結果】・全国平均の学級生活満足群 42% 本校の各学級平均学級生活満足群 70% 区内トップレベルのAIドリル活用率90%

【成果】

- ・ICTの推進を図るために情報教育部が中心になって、研修を進めた。フレキシブルに迅速に課題解決を図り全教員が共通理解し、共通指導で児童の個別最適化学習に生かすことができた。またグーグル認定教育者として4名が合格した。
- ・クラウドの活用により、校務を軽減することができた。
- ・指導力の向上を目指し、各教員の職層と経験年数、資質と能力から、個に応じた指導や助言を行った。若手教員には各教科で「あだちスタンダード」の授業ができるように、管理職と区教科指導専門員で継続的な指導を行った。特に、「算数」では、児童の自力解決を大事にした問題解決型授業展開の指導法が継承されている。ベテランから若手までの全員が本校の学習における課題について強い危機意識をもって、自己の授業力の改善を図れた。
- ・教師一人一人が児童の心を育てる教育ができるように、「リーダー・イン・ミー」を心の教育の柱として推進した。教師の指導によって、「ポーズ」、「ゴール」、「信頼貯金」、「シナジー」の4つのキーワードは日常化され、児童もそのねらいを理解しながら、学校生活を送っている。そのため、足立区の中でも学力が高く、やる気に満ちながらも穏やかで落ち着いた学校として、保護者地域から高く評価されている。

#### ③ 保育園・幼稚園・中学校との連携

○成果目標 保育園・幼稚園・中学校と連携を密にし、入学時・卒業時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。

○実施結果 保育園・幼稚園との連携

教職員同士の交流研修が実施できた。念願だった保育園保護者会での校長講話や、体験給食、保育園児の音楽会参観、施設見学、授業体験を行うことができ、小学校入学への期待を高めることができた。

○実施結果 花保中学校との連携

有意義な研究授業と協議会を相互に行うことができた。昨年度に比べ、授業力の向上が図れる連携活動ができた。花保中学校の学力状況をフィードバックできた。花保小学校の卒業生の学力調査の結果そのものも良かったことから、これまでの連携の成果として互いに自信を深めることができた。



## (2) 保護者や地域へのメッセージ

令和4年9月10日(土)に創立50周年記念児童集会、11月12日(土)に創立50周年記念音楽会、26日(土)には、創立50周年記念関係行事の中で最も重要な児童式典、記念式典、祝賀会を盛大に実施できました。記念すべき令和4年度が終わろうとしています、この年を振り返り皆様に感謝の気持ちと皆様の素晴らしさをお届けします。

☆保護者や地域の皆様が素晴らしい。

1 花保小学校の教育理念とビジョンを理解し支援してくださっている。

(1) 学力向上策、基礎的・基本的な学力定着のための本校独自の取組を理解し、ご家庭でも協力していただいています。

- ・そだち指導 ・漢検、数検、英検(6年生) ・算数少人数指導 ・日本語指導
- ・国語辞典の活用 ・九九検定 ・自主学習ノート ・放課後学習 ・個別指導

成果 足立区学力度定着に関する総合調査で足立区の中でも成績上位校 進学先の中学校でもいい結果をだしています。

(2) 心を育てる教育へのご理解とご協力

花保小学校は、平成29年度から、足立区教育委員会の認定を受け、アメリカのビジネスコンサルタントであったステーブン・R・コヴィー博士の提唱する「7つの習慣」の考えを教育のベースに取り入れた「リーダー・イン・ミー」を取り入れています。その中でも四つのキーワードとなる「ポーズ・ゴール・信頼貯金・シナジー」で、これからの人生が「より豊か」に、より「自立」に向かうように人づくりを行っています。さらに、「無言清掃」、「QU調査」、「サンクスイヤー」、「表彰」、「百人一首」をはじめ多くの手立てで、「心」を育てています。

成果 楽しく穏やかな学校生活を送れています。学級崩壊の学級がありません。いじめのない学校にするために「いじめには毅然とした指導を行う。」こともご理解いただいています。また、万引き等の非行や問題行動が発生していません。進学先の中学校でも評判の高い卒業生です。

2 生活規律についてのご理解とご協力

校則はなくても校風を理解し、茶髪や奇抜な髪形、服装についてご配慮してくださっています。見た目は大事です。また、「はなほのよい子」のきまりについて、筆箱や授業中に机上におくもの等の細かいことにもご配慮いただいています。

成果 穏やかで落ち着いた学校として、この地域でも高く評価されています。

3 ご意見、ご質問、ご要望を率直に伝えてくださる。

(1) 入学前から私がお願いしている「学校批判、教師批判から何も生まれない。」ことをご理解してくださっています。そして連絡帳やお電話で、気になることやご意見、ご質問を率直に伝えてくださっています。そのことで私たちは多くのことに気づき、課題を解決できているのです。皆様との信頼関係に基づいた解決のプロセスができていると思います。

(2) 学校行事後のアンケートでは、多くの保護者の皆様からお褒めの言葉、励ましの言葉、改善のご要望をいただいています。このことで教職員がモチベーションを高め、次への原動力になっています。特に運動会では、皆様からのご意見を元に毎年改善しています。皆様のご協力をいただきながらの運動会。「保護者の皆様と一緒に楽しみながらつくりあげている感」があります。これは運動会だけでなく、音楽会や持久走記録会などの行事や場面でも皆様から「ここを改善してくれませんか。応援していますよ。協力できることはやりますよ。」というお声が届いています。これは「保護者も主催者」、「みんな子どもを育てる。」保護者の皆様の素晴らしき感性、すばらしき花保愛だと思います。

本校はまだまだ成長できる学校です。これからも、一人一人の子どもに寄り添い、個々のよさと可能性を認め、伸ばさせることをすべての教育活動の根幹とし、豊かな人間性の育成のために努力して参ります。また、子どもが分かる楽しさと、できる喜びを十分に感じる授業を推進します。保護者の皆様、地域の皆様と共に子どもたちの成長を考え合い、三者が一体となった教育を進めたいと考えています。そして、保護者の皆様には、「花保小学校に通わせていることに誇りがもてる学校」、在校生にとっては学校生活に希望をもち「わくわくする学校」、卒業生にとっては「花保小学校を卒業したことに誇りがもてる学校」にしていきます。令和5年度もこれまで同様に本校の教育活動に対してご支援をお願い致します。

### (3) その他(学校教育活動全般について)

学校での生活規律や学習規律の徹底を教職員全員で取り組み、思いやりのある心を育て、学力をしっかりと身につけさせるように真剣に努力しています。  
具体的には、

- ① 「自分で考え、自分で判断し、自分で行動する。そして責任をとる。」ことの大切さの呼びかけ。
- ② 朝会では、指示や号令なく整列させ、表彰の機会を多くする。
- ③ 一斉放送の際に全児童が全行動を停止して放送を聞く態度の確立。
- ④ 廊下歩行、右側歩行の徹底 「廊下はね、走っちゃだめだめ 花ほっ子」。
- ⑤ 自分で考えて学校を綺麗にする「無言清掃」。
- ⑥ 「QU調査」を年2回実施し、あたたかな人間関係づくりを行う。
- ⑦ 人のために役立つ喜びを実感させる「サンクスイヤー」。
- ⑧ 思いやりのある言葉「ふわふわ言葉」の奨励と「ちくちく言葉」の撲滅。
- ⑨ 教員も子どもたち同士も「おまえ」とは言わない。⑩ 名前を呼ぶときは、教員も子どもたち同士も基本的に「さん」付けで。
- ⑪ 自己肯定感を高め、生きる力を育む「リーダー・イン・ミー」の推進。
- ⑫ みんなで考えたわたしたちの学校目標と「17宣言(いいな宣言)」に基づく行動。
- ⑬ 朝の「あいさつ運動」と子ども同士のあいさつの奨励。
- ⑭ 学習により集中させるための花保教室環境スタンダードの全教室展開(ユニバーサルデザイン)。
- ⑮ 学習にふさわしい服装や身だしなみ。⑯ 学習に必要なものだけを机上に用意する約束 えんぴつ3本と消しゴム1つ。
- ⑰ 朝のスタートを円滑にするための登校時間の設定 8時から8時10分まで。
- ⑱ 区の学力調査結果の分析と基礎学力定着のための復習テスト。
- ⑲ 帰りの会後に行う補習の実施。
- ⑳ 家庭学習の充実。

など多くのことを取り組み、数値では測れない全体としての学校力も向上していると思います。さらによりよい学校にするために令和5年度の「花保小学校」を構想していきます。